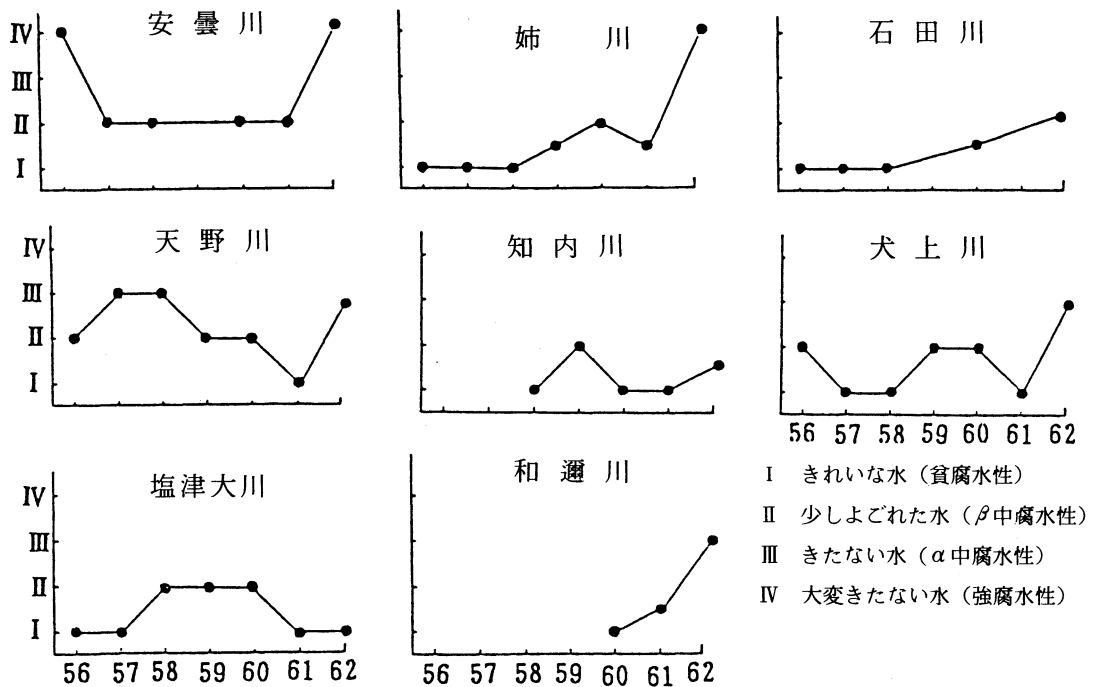


1. 事業細目	保護水面管理事業	予算額	水産課予算	千円
2. 研究名	保護水面の底生生物調査	予算区分	国庫補助	
3. 研究期間	41年度～ 年度			
4. 担当者	吉原			
5. 目的 保護水面におけるアユ産卵環境状況を把握するため、底生生物調査を実施し、水質階級の判定を行った。				
6. 方法 昭和62年8月6日及び9月14日に保護水面8河川の底生生物調査を実施した。 調査地点は、表1のとおりであった。 底生生物の採取は、50×50cmのコドラートを用いた。なお、このコドラートの下流側の一辺には、35メッシュ（内径0.420mm）の袋網を付け、流出した底生生物を捕捉した。採集した生物は、直ちに5％ホルマリンによって固定し、後日、同定を行った。同定は、「日本淡水生物学」（川村多実二原著）に従い科あるいは亜科にまでとどめた。				
7. 結果の概要 各河川の優占種は、次のとおりであった。 安曇川：カゲロウ類、赤ユスリカ 石田川：カゲロウ類 知内川：カゲロウ類 塩津大川：トビケラ類、カゲロウ類 姉川：ユスリカ 天野川：ヒル類 犬上川：ユスリカ 和通川：カゲロウ類 この結果をもとにして「水生生物による水質の調査法」（環境庁水質保全局）を参考にしながら、各河川の水質階級を判定した。経年変化を図1に示した。 以上のうち、安曇川及び姉川では、貧腐水性～強腐水性までの広範囲にわたる水質判定結果がえられた。これらの河川では、夏から秋にかけて、渇水のために一部が伏流水となり、雨が降ると再び川全体に水が流れるという状態を繰り返す。このため、渇水時期には水の流れている部分でも溜り水のような状態となり比較的汚濁と高温、貧酸素に強い中腐水性～強腐水性水域の生物が優占する。しかし、雨が降って水が流れると再び、もとの貧腐水性水域の生物が入ってくるという状況が生じ、生物相がきわめて複雑になっているものと思われる。 また、同時に実施した水質調査から判断して、昭和62年度保護水面8河川の水質は、アユの産卵、ふ化等にとって良好であると思われる。				

8. 主要成果の具体的数値

表－1 底生生物調査実施地点

河 川 名	調 査 地 点
塩津大川	伊香郡西浅井町岩熊、アユヤナ場
石 田 川	高島郡今津町浜分、南新保間浜分橋下
天 野 川	坂田郡米原町多良、アユヤナ場
犬 上 川	彦根市八坂町、アユヤナ場
姉 川	東浅井郡びわ町南浜、大浜間アユヤナ場
安 曇 川	高島郡安曇川町安井川、常盤木間常友橋下
知 内 川	高島郡マキノ町知内、アユヤナ場
和 邇 川	滋賀郡志賀町アユヤナ場



図－1 底生生物により判定した水質階級の経年変化

9. 今後の問題点

10. 次年度の具体的計画

アユの産卵期前に継続調査